

ア ウ ト リ チ

通信



第18号

2011年9月20日発行
年2回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための コンサート・シリーズ

七夕コンサート

七月二日(土)、本学講堂にて「子どものための七夕コンサート」願いを音にこめて」(子どものためのコンサート・シリーズ第三十一回)を開催しました(第一部十一時、第二部十五時開演。来場者、計七百二十九名)。「音楽によるアウトリーチ」履修生八名に加え、同級生の賛助出演四名の計十二名が出演。東日本大震災への思いと、身近な楽器であるピアノの可能性を知

ってもらいたいという思いを込めてプログラムを構成しました(声楽・藤野まり藻、井上美和、高井菜摘、ピアノ・黒川彩香、松本未来、佐藤彩子、下麻里子、ピアノ/オルガン・井上朝葵、ヴァイオリン・竹田早希、フルート・佐野里穂、お話・奥野いとし、高井菜摘)。



最初に、出演者六名がトーンチャイムを鳴らしながら客席後方から登場して開演を告げます。

幕の前で、フィンランドに伝わる七夕の神話を紹介し、それが終わると共に幕が開いて、ホルスト作曲の組曲《惑星》より《木星》をピアノ連弾で演奏。幕が開き始めると同時に演奏が始まったので、会場の子どもたちも一体何が始まるんだろうと興味を示してくれました。

ピアノは「楽器の王様」とも呼ばれ、いろいろな可能性を持っていることを司会者が紹介して、プッチーニ作曲のオペラ《ラ・ボエーム》よりミミのアリア(私の名前はミミ)とムゼッタのアリア(私が町を歩くとき)を演奏しました。オペラの

伴奏は本来オーケストラが担いますが、ピアノはたった一人で、何十人ものオーケストラの代わりができることを伝えました。

次に、今年が生誕二百年のピアノの名手フランツ・リストを紹介し、《巡礼の年報 第二年イタリア》より《ペトルルカのソネット一〇四番》を演奏しました。ピアノは、歌い手がいなくても、一人で歌える楽器であることが分かってもらえたらと思います。

続いて、子どもたちを巻き込んだので、アクティビティのコーナーです。司会もアクティビティ担当にバトンタッチします。出演者四人も客席に下



りて、子どもたちの中に入りま
す。リスト作曲〈ハンガリー狂
詩曲第二番〉を題材に、ポーラ
ンドの踊りフリスカに特徴的な
シンコペーションのリズムを、
ボディー・パーカッションで刻
んでいきます。「マンゴー、ウン
バナナ、マンゴー、ウン、バナ
ナ、タタタタタタタタタタタ
タタタタ」という言葉もつけま
した。「ウン」のところがシンコ
ペーションです。

ちも自分
たちの動
いたリズム
を探し
ながら聴
いてくれ
ていた様
子でした。



こうして特徴的なリズムを体
感したところで〈ハンガリー狂
詩曲第二番〉の演奏に入ります。
少し長い曲でしたが、子どもた

ここで一転して、三月におこ
った東日本大震災への祈りと想
いを込めて、フォーレ作曲〈レ
クイエム〉より〈ピエ・イエズ〉、
バッハ作曲〈G線上のアリア〉
を二曲続けて演奏しました。〈ピ
エ・イエズ〉はソプラノ独唱と
オルガン伴奏での演奏です。子
どもたちに生で聞く機会の少な
いオルガンの響きを味わっても
らえたことと思います。

次に、会場のお客様と一緒に
下総皖一作曲〈たなばたさま〉
と中村八大作曲〈上を向いて歩
こう〉を歌いました。ミュージ
ック・クリエイション専攻の学
生に依頼して編曲してもらい、
〈上を向いて歩こう〉はヴァイ
オリンとフルートも加わる編成
で演奏しました。

フィナーレは、スコットラン
ド民謡の〈アメイジング・グレ
イス〉。曲の後半では出演者全員
が舞台上上がり、一同〈アメイ

ジング・グレイス〉を心を込め
て歌いました。



私たちの学年にとって初めて

のアウト
リーチ活
動でした
ので、不
安で一杯
でしたが、
最後まで
熱心に指
導して下

さった津上智実先生を始め、テ
イチニング・アシスタント（院
生）の東瑛子先輩、舞台袖や照
明等のスタッフたち、そしてア
ウトリーチ・センターのスタッ
フの方々のお蔭で無事に終える
ことができました。改善すべき
点、反省すべき点は多々残りま
したが、終演後、講堂出口でお
見送りをした時のお客様の楽し
そうな笑顔は忘れられないもの
となりました。直接私たちに「素

敵でした」と言葉をかけて下さ
ったり、「一緒に写真を撮ってほ
しい」と照れながら言いに来て
くれたりした子もありました。

（井上朝葵、高井菜摘・記）



学外アウトリーチ

(二〇年度の實習から)

国立病院機構 刀根山病院

三月三日(木)、独立行政法人国立病院機構刀根山病院(豊中市刀根山五一一一)の院内コンサート(六十分)に出演しました(声楽・楠瀬由記、松井るみ、フルート・曾田友子、砂川奈穂、ピアノ・遠藤麻子、藤波真理子、濱野恵里香、小林聡子、丹波友里、恒岡朋代、矢嶋杏里沙、山下恵里奈)。

卒業前最後の實習でしたので、プログラムの構成から力を入れました。患者の皆様と私たちと、音楽を通して人の輪を繋ごうという気持ちを込めて、「人の輪コンサート」と題しました。

この狙いに向けて、患者の皆様に参加してもらえらる歌や体操を盛り込みました。演奏では、独奏から二重奏、連弾、最後に全員による合唱と、徐々に奏者が増えていく流れを作りました。コンサートのスタートは、自然の息吹と大地の鼓動を感じさせる村松崇継作曲(アース)のフルート独奏。次に独唱で山田

耕笹の(「からたちの花」と続きます。「からたちの花」は春の季節でもあります。

温かい拍手を頂いて会場の雰囲気緩和のところで、「みんなが歌いましょう」のコーナードに入ります。この日がちょうど桃の節句でしたので、「うれしいひな祭り」と滝廉太郎の(「花」)を皆様と一緒に歌いました。

次に、ピアノ独奏でショパン(「革命」)、ソプラノ独唱でベッリーニの歌劇(「ラ・ソナンブラ」)より(「ああ、信じられない」)を演奏しました。皆様、熱心に聴いて下さいました。

続いて「体を動かそう」のコーナーでは、マスカーニの歌劇(「カヴァレリア・ルステイカーナ」)の(「間奏曲」)に合わせて、軽くストレッチをしました。患者の皆様も楽しそうにやっています。

後半はソロからデュオへと進みます。フルート二重奏でドットプラール(「ロンド」)、歌の二重唱でモーツァルトの歌劇(「フィガロの結婚」)より(「手紙の二重唱」)、そして、フィギュア・スケートの浅田真央選手がオリンピックで使用したハチャトウリアン(「仮面舞踏会」)をピアノ連弾で

演奏しました。有名な曲を選んだので、一層興味を持って頂けたと思います。

再び「みんなで歌いましょう」のコーナーで、(「むすんでひらいて」)を振り付きで歌い、坂本九(「上を向いて歩こう」)を全員で歌いました。皆様の笑顔も素敵でした。

最後は、二部合唱で日本の美しい四季を感じて頂こうと、(「四季メドレー」)(春が来た)と春の小川(「おぼろ月夜」)のぼり(「我は海の子」)と虫の声(「紅葉」)と冬景色(「スキー」)を出演者全員で歌いました。手拍子や、口ずさんで下さる方も出て大変盛り上がりしました。

アンコールは美空ひばりの(「川の流れるように」)。一緒に歌って下さる方や、中には涙を流しながら聴いて下さる方もありました。自然と会場の空気が一つになったように思います。

実は、このコンサートを楽しみにしておられた患者さんが、少し前にお亡くなりになられたとのこと。遺族の方が代わりに聴きに来られ、終演後に涙を流しながら感謝の言葉をかけて下さって、花束を頂きました。出演者一同、このコンサートに全

力を注いでよかったですと胸が熱くなりました。

コンサート実施の一ヶ月前に、病院スタッフの皆様が事前講義をして下さって、患者さんの病気のことやコンサートに対する病院側の考えを話して下さいました。これは、大変勉強になりました。病院スタッフの皆様のご協力と話し合いによって、しっかりと理解できたことがコンサートの成功につながったと心より感謝しています。

一年間の實習の最後に、アウトリーチ活動の集大成となるコンサートを作り上げることができました。本当にありがとうございました。

(丹波友里・記)



ロンドンでのチャリティー・

トーク&コンサート

絹田 朋子

英国ロンドン在住のフルーティスト絹田朋子（音楽学部二〇回生、アウトリーチ一期生）です。卒業後、英国に留学し、今は今年四月に生まれた娘の子育て中です。今日は、七月三十日にロンドン近郊の町ゴールドズグリーンでのトリニティー教会で行ったチャリティー・コンサートの様子をお知らせします。楽器を演奏している人と出会うと、つい一緒にコンサートの企画を立てたくなってしまふ私の性格は、子どもを生んでも変わらず、今回も初対面からわずか一ヶ月半で本番を迎えることになりました。

共演者は、日本と英国を始め世界各国で演奏活動をされているピアニストの松本さやかさん。松本さんは、イギリスの子育て

あかちゃんといっしょ

あかちゃんといっしょにたのしむ大人の為のコンサート&おはなし
収益金は全額東北被災地の赤ちゃんと妊産婦さんを応援する MUSLIN SQUARE PROJECT に寄付されます

フルート きめた ともこ
ピアノ まつもと さやか
おはなし オールライト ちえみ

30th July 2011 14:00

TRINITY CHURCH NW11 4EG
地下鉄GOLDERS GREEN 駅 徒歩3分
大人 £10 (要予約)
赤ちゃん・子ども 無料



コンサート詳細
ご予約 お問い合わせ
http://muslinjapan.com/event0730/
londonmothers@gmail.com(絹田)
07931652976(佐平)

万能布「モスリン・スクエア」を東日本大震災で被災した乳幼児の母親たちと、遠隔避難や疎開出産中の女性たちに届けようというチャリティー「モスリン・スクエア・プロジェクト」
<http://muslinjapan.com/>の発起人・責任者でもあり、今回のコンサートの収益金は全額このプロジェクトに寄附しました。

コンサートのタイトルは「あかちゃんといっしょ」とし、赤ちゃんの泣き声等を気にして、コンサートの足を運ぶのをためらっている方々に楽しんで頂けるよう、会場選びとプログラム

構成に工夫をしました。

*会場

ベビーカーでの来場に備えて、会場内にベビーカーの保管場所を設けたり、客席の横にベビーカーを置いて赤ちゃんが寝たままでも音楽を聴いたりできるように、十分な広さのある会場を選びました。会場までのアクセスにも気を配り、会場周辺の駐車許可（ロンドンでは路上駐車がほとんどですが、決まり事が多く、罰則は大変厳しい）と、最寄り駅にエレベーターがあること（これもまたロンドンではなかなか難しい）が条件でした。



会場のトリニティー

会場内にはおむつ交換場所を数カ所設置し、コンサート途中

の授乳や会場への出入りを自由にするなど、子育て中の演奏者自身が「こういうコンサートだったら、ゆっくりと気兼ねなく楽しめるだろうな」と考えながらの会場設営でした。

*プログラム（コンサート三十分、おはなし三十分）

「赤ちゃんが退屈しないよう簡潔に、しかし内容は濃く」をモットーに選曲しました。

第一曲のゴセック作曲（ガヴォット）は、より近くで音に触れてもらえるよう、会場の後ろから客席内を練り歩きながら演奏しました。

ソロ演奏には、演奏者が二人とも生まれたばかりの乳児を抱えているので、それぞれの体験をもとに、フルートはマレ作曲（スペインのフォリア）（我が子はこの曲を聴くとなぜかお通じがよくなります。コンサート後には「うちの子にも効果が！」という驚きの声もありました）、

ピアノは松本さんが妊娠中、お腹の子のために作曲した〈Open Your Eyes〉を、来場の妊婦さんたちのお腹の子に、「無事に生まれてきてね」という願いをこめて演奏しました。

また演奏活動をしていると、「小さな赤ちゃんがいるのに、どうやって練習するの？」と訊かれることが多いので、私は娘をベビーバウンサーに、松本さんは抱っこ紐でという日頃の練習風景を披露しながら、ジュノン作曲〈ヴェニス の 謝肉祭〉を演奏しました。演奏後、私は同



じステージにいた娘のことをすっかり忘れ、自分だけ舞台袖に向かつてしまい、お客様にご心配をおかけしました。

アンダーソン作曲〈シンコペイティッド・クロック〉では、全員が参加できるように、大人はヴォイス・パーカッションで、少し大きな子どもたちには舞台上上がってもらって音の鳴るおもちゃで、私のウッドブロックに合わせてリズム係を担当してもらいました。「ヴォイス・パーカッションならば赤ちゃんを抱っこしたままでも参加できるので楽しかった」と好評でした。

最後に、地球の裏側イギリスから、日本でがんばっているお母さんたちへ届きますようにという願いをこめて、村松崇継作曲〈Earth〉を演奏しました。

二十分ほどの休憩をはさみ、後半はオールライト千栄美さんのお話しでした。オールライトさんは震災まで福島原子力発電

所近くの村にお住まいで、原発の爆発直後に避難を余儀なくされ、現在はイギリス人の夫の実家に身を寄せて、ロンドンで三人の子どもたちと暮らしています。震災後のお話しの内容は壮絶で、言葉が出ませんでした。

お話しが終わりに近づいた頃、松本さんがピアノの即興演奏で舞台に加わり、最後に山上路夫作詞、村井邦彦作曲〈翼をください〉を全員で歌ってコンサートを終了しました。「とても楽しかった」「どの赤ちゃんも案外静かに音楽を聴くことができいて驚いた」「またこのような機会を作ってほしい」等の感想を頂いて、大変うれしく思いました。今回のコンサートは単なる「赤ちゃん入場可」ではなく、チャリティーの面が重要だったので、新たに多くのことを学びました。「チャリティー」というと「お金を集めたり、自らの身を削って困っている人たちを助



けたりする」というイメージをこれまで持っていたのですが、実際にやってみると、チャリティー活動によって、活動する側にも思いもかけない出会いや、すばらしい機会との巡り合いがあることを知りました。

そのような良い面が自己満足に終始することのないよう、細心の注意を払いながらプロジェクトを運営し、コンサートの企画・準備等、面倒な仕事を一手に引き受けてくださった松本さん、小さな赤ちゃんを抱えながら色々とお手伝い下さったボランティアの方々、ご来場くださった全てのお客様に深く感謝いたします。

音楽学部を卒業して五年の南香代子（音楽学部一二三回生、アウトリーチ四期生）です。学部二回生の時に立ち上げたグループへびっこら むーじかんのは、現在もアウトリーチの授業で共に勉強しコンサートを作り上げたメンバーを中心に、演奏活動を続けています。

学生時代、私たちはアウトリーチの授業で新たな手法を学びながら、インターネットを駆使して病院や介護施設等にコンサートを取り、依頼側の希望に沿うコンサートをする傍ら（一部、大学には内緒のものもありましたが：！）、自宅マンシヨンの集会場に電子ピ

アノやマリリンバを持ち込み、友人たちを巻き込んで、「こんなこと、やってみてみたい！」をふんだんに盛り込んだ、すべて自分たちで考えて運営するコンサート



を行ってきました。

へびっこら むーじかんのは現在、河戸茉悠（ピアノ）、井上（旧姓河本）依津湖（ピアノ）、増田みのり（フルート）と私（声楽の南香代子）の四人を中心に活動しています。ピアノとフルートの三人は、それぞれ後進の指導に当たる傍ら、合唱団や結婚式場でも活躍しています。また、アウトリーチ・セミナーを受講したり、研修プログラムに参加したり、日々忙しく飛び回っています。私は聖歌隊で歌いながら、普段は大阪市内のテーマパークで、非日常の世界を提供するエンターティナー（クルー）として「ゲストを笑顔にする」とを心がけながら働いています。活動する時も同じだと思っています。

このように普段は別々に活動している四人がめざすコンサートは「ふつー」とは違う、笑顔あふれるへびっこらコンサート



です。毎回、コンサートの冒頭にへびっこらから、「携帯電話をマナーモードにしないと、あなたが気まずい思いをしますよ」「コンサート中、寝てもいいですよ」「知っていたら、一緒に歌いましょう」など、その場の雰囲気に合わせてお願いをします。そうすると、冒頭からお客様の笑顔が増えますし、知っている曲が出てくると、手話と一緒に歌って下さる方、フラダンスを踊って下さる方などもあり、会場が一体となってへびっこららしさが出てきます。

演奏曲目については、よく知られた曲ばかりでなく、「知らない曲が出てきても、次に聞いた時には聞いたことのある曲になっている、その次に聞いた時には知っている曲になります。どうぞ、知らない曲との出会いをお楽しみください」と、私たちだからこそその音楽を届けたいという思いから、演奏者の専門性を生かした曲も登場させています。コ



ンスタート終了後の感想やアンケートに「知らなかったから楽しかった!」「知れてよかった!」と、演奏家としてうれしいコメントを頂いています。

曲の時代背景や演奏のテクニックを説明したり、曲と演奏者の出会いについてお話ししたり、また衣装の早替えなど、いかに楽しんでもらうかを大切にしながら、会話のあるコンサートを作っています。

現在は、ボランティアで無償の演奏会をしても、へびっこら むーじかんの会計から交通費を支給したり、助演者に演奏料を支払ったりすることができるよう工夫して運営しています。こうして演奏活動を行うことができているのも、アウトリーチを受講して実践を積んだこと、そして何より卒業後も一緒に演奏したいと思える仲間を得たことが大きいと思います。

へびっこら むーじかんのはやってみてみたいことがたくさんあるため、次のコンサートへ向けて構想を練っています。会場の地元の住民にチラシを配る形で、草の根の活動を続けている私たちへびっこらですが、どこかで出会った時には、よろしくお話しします。

子どものための

コンサート・シリーズ

第三十二回

スペシャル・コンサート

「子どものためのスペシャル・コンサート」はフルートの魅力を満喫しよう！〜(子どものためのコンサート・シリーズ第三十二回)が、十月十五日(土)、本学講堂で開催されます。

出演は、本学音楽学部教授でフルート奏者の榎田雅祥先生、須山由梨(ピアノ伴奏、神戸女学院大学大学院音楽研究科生) (Baroque) 2 (神戸女学院大学古楽同好会)、Kcフルートアンサンブル(神戸女学院大学音楽学部生)です。

オットテールの(トリオ・ソナタ)、トゥールの(「ナブッコ」による幻想曲)、タファネルの(「優雅なインドの人々」による幻想曲)、ドビュッシー(「アラベスク」)などの演奏を予定しています。

いろいろな時代のさまざまなフルートを紹介しながら、楽しいお話と優れた演奏で音楽のおもしろさをお届けします。皆様どうぞお運びください。

第三十三回

子どものための

クリスマス・コンサート

今年の「子どものためのクリスマス・コンサート」は、十二月十日(土)に本学講堂で行われます。昨年に引続いて、今年もオーディションで選ばれた卒業生グループが出演します。今回の出演者である「アンサンブルちようちよ」を代表して、白坂亜紀さん(第一二四回生、アウトリーチ第五期生)にお話を伺いました。(藤野直・記)

♪アンサンブルちようちよ

発足の経緯

メンバーは、今井さつき(フルート)、西村遥子(ピアノ)、白坂亜紀(ピアノ)、谷田奈央(声楽)の四人です。この四人は「音楽によるアウトリーチ」を履修して、こうした活動を卒業後も続けたいと各々思っていました。アウトリーチ実習で、偶然この四人で演奏したことがきっかけとなって、グループを結成しました。「ちようちよのように沢山の人々へ音楽を届けられますように」という思いを込めて「ア

ンサンブルちようちよ」と命名しました。現在、結成五年目です。

♪演奏する時、何を大切にしていますか？

相手の目線に立って、何が求められているかを一番に考えています。そして、常に笑顔でいることです。

♪活動していて、どのようなごたえを感じていますか？

リピーターのお客が増えたり、コンサートに来場くださった方から演奏のご依頼を頂いたりすることが多くなりました。このような「縁」で今の私たちがあると感じていますので、一つ一つのコンサートやそこでの出会いを大切にしています。

♪今回のクリスマス・コンサートのテーマは？

「モーツアルトとクリスマス☆」です。

♪ねらいは？

モーツアルトの音楽の豊かさ、美しさを感じてもらおうこと、そして季節にふさわしい曲を楽しんでもらうことです。神戸女学院らしいクリスマス・コンサートにしたいと考えています。

♪工夫している点や力を入れている点は？

演奏に加えて、お話や参加コーナーを随所に盛り込むことで、子どもたちが最後まで集中できる流れを作っています。これは、私たちがコンサートに際して常に心掛けている点です。子どもたちが「自分も参加してコンサートを作り上げた」と実感できるプログラムをめざします。

♪最後に一言

私たちの原点である「子どものためのクリスマス・コンサート」に再び出演できるのは大変うれしいことです。皆様に楽しんで頂けるよう、全力で取り組みます。



アンサンブルちようちよHP

<http://e-butterfly.jp/>

今後の予定

「子どものためのコンサート・シリーズ」第 32 回

子どものためのスペシャル・コンサート ～フルートの魅力を満喫しよう！～

日時：10 月 15 日（土） 15：00～（小学生以上対象、小学生未満入場不可）

会場：神戸女学院講堂

出演：榎田雅祥（フルート奏者、神戸女学院大学音楽学部教授）

須山由梨（ピアノ、神戸女学院大学大学院音楽研究科生）

神戸女学院大学 Baroquer'z（バロッカーズ、神戸女学院大学古楽同好会）、

神戸女学院大学 フルートアンサンブル（神戸女学院大学音楽学部生）

入場料：大人 1,000 円、子ども（小学生～19 歳）500 円

「子どものためのコンサート・シリーズ」第 33 回

子どものためのクリスマス・コンサート ～モーツァルトとクリスマス☆～

日時：2010 年 12 月 10 日（土）

第 1 部 11：00～（年齢制限なし、小学生未満対象）

第 2 部 15：30～（小学生以上対象、小学生未満入場不可）

会場：神戸女学院講堂

出演：アンサンブルちょうちょ

今井さつき（フルート）、西村遥子（ピアノ）、白坂亜紀（ピアノ）、谷田奈央（声楽）

入場料：大人 500 円、子ども（19 歳以下）300 円

お申込み方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場ですてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！

♪病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター（月～金 10：00～15：00）

〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551

E-mail : outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

9 月からは学外での実習も予定されています。がんばります！（寺澤）

秋のスペシャル・コンサート、素敵なフルートの音色をお届けします（三上）

この 5 月から勤務しています。日々てんでこ舞いですが、がんばります！（藤野）

10 回目の「子どものための七夕コンサート」を終えて、今後を考える日々です（津上）